

たくさんの方々が竹丸に参加してくださいました。

紙面を借りて心より御礼申し上げます。

①ペ件業日数11日 ②ペ件業人數111人

竹切りの準備に際して多くのみなさまのご協力をいただきました。御礼申し上げます。

中津市三光西林地区のみなさま・宇佐市猿渡地区のみなさま・大分県森林づくりボランティア支援センター様
三和酒類株式会社様・川原建設様・ソーコーリース様・山国川河川事務所様・中津土木事務所様・大分県北部振興局様・宇佐市役所様 ★竹切りボランティア作業は「大分県森林環境税」による補助金をいただき活動しました。



H師匠に聞く
中津ん『笛干見漁』

いえね、私んとこの家を建て替え
たんがね、昭和38年ですけん、それ
から2〜3年は私はまだヒビをした
という記憶があるんです。だから40
年か41年頃ヒビがなくなつたと思ひ
ます。そのかわり海苔漁場が1〜2
枚とか。子どもさんが、小学校で結
構遊びに来ておりましたよ。いろん
なキスゴとか、カレイとか持つて帰
つて夕飯のおかずになりました。

ヒビの下には、そりや、アサリ貝
とかハマグリとか、結構魚が取れん
時にみんな手ぶらで帰れんき、ツベ
タの目を見たり、ハマグリの目を見
たり、それなりに何か皆捕つて帰り
よつた。わし達は皆、海の潟?を知
つとるき。



身から出たササヒビ

10周年目のチヨームボー計画

水辺に遊ぶ会 竹取物語

水辺に遊ぶ会のロマンチストが言った。きっと大丈夫。絶対うまくいく。

不可能なままにしてきた水辺に遊ぶ会なのだから。

効率とかお金とか、そういうのが当たり前に優先される社会の中で、見失ってきたものを見つめながら、うちの会は歩いてきたんだからさ。

▼ 笹といえば、願いごとを短冊に書いて下げる七夕を思い出すが、私が経験した笹はそんなロマンティックなものではなかつた。5月から始めた竹切り作業、切り倒した翌週に現場に行くと、もうすでにそこには竹(タケ)ノコじゃないよ。竹になつてゐるのが…。恐るべき生命力である。そして切り株には、何とも奇怪な物体が…。切られたにもかかわらず、吸い上げた水分が切り口にたまつて発酵しているのである。恐るべし。

▼ この竹の物凄いパワーを研究すればエコビジネスは一変するのではなかろうか。によきによき伸びる時に、めっちゃ二酸化炭素を吸つてゐる気がするし(気がするだけ。真相は不明)、チキュウオンダンカの救世主にならないかな? 貴重な山野を切り拓いたり、穀物畑をぶつぶしてモロコシ作らなくとも、あの驚異の発酵パワーでバイオエタノールとかできないもんどううか…。

▼それはさておき、素人ばかりで始めた竹切り作業である。いかに素人だったかというと、誰かさんが半袖Tシャツでやってきたのは愛嬌としても、見るに見かねて助つ人に来てくれた森林ボランティアさんたちに「ヘルメットは必須アイテム！」と言われるまで、危険きわまりない作業をしてたのである。「はあ？ 市民ボランティアで竹切る？ 1万本？ そら無謀だつて」竹林を探し回つているときに、心配半分あきれ半分で、こう言われたが、作業をしてみて初めて、自分たちが無謀野郎だったということを知つた我々なのである。

▼竹に困っている人達と、竹が欲しい人達を、果たしてうまくリンクさせることができたのだろうか。うれしかったのは、こんな大メイワク素人集団に「ありがとう」とあちこちで声をかけてもらつたこと。宇佐の現場では、糸口学園の子どもたちが通学の行き帰りに「ちょっとずつきれいになるね。良かつたね。ありがとう」と言つてもらえて感激だつた。ちいとは社会の役に立つたのだろうか?

▼この壮大な「竹取り物語」ササヒビ復活プロジェクト」が水辺に遊ぶ会創立10周年に相応しい大事業であることは確かだ。それにしても10が経ち、我々も確実に年を取り、本当に「竹取翁(婆もおるが)」になつているのは悲しい現実である。後は漁師さんの仕事を待つばかり。益過ぎには中津の干潟に、蛤の蜃氣楼ならぬササヒビ御殿が忽然と姿を現すハゲなつどう。